

書評会

小笠原 博毅 著

『セルティック・ファンダム グラスゴーにおけるサッカー文化と人種』

(せりか書房, 2017)

評者1



稲津 秀樹

(鳥取大学地域学部)

応答



小笠原 博毅

(神戸大学国際文化科学研究科)

評者2



稲垣 健志

(金沢美術工芸大学美術工芸学部)

司会



辛島 理人

(神戸大学国際文化科学研究科)

評者3



加藤 昌弘

(名城大学人間学部)

日時:

10月29日 (日) 14:00~17:00

場所:

神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ

(大阪市北区鶴野町1-9 梅田ゲートタワー8F)

セルティック・ファンダム

グラスゴーにおけるサッカー文化と人種

小笠原博毅



せりか書房

< 内容紹介 >

サッカー原理主義にも知識人の知的遊戯にも無縁。骨太なエスノグラフィに基づくファンダム研究は、サッカーだけがつなぐカルチュラル・スタディーズとポストコロニアル研究との節合を鮮やかに描き出す。文化政策の道具と化した彷徨えるカルチュラル・スタディーズに物申すこのクリティカルなアンチ・テーゼは、セクト主義、ナショナリズム、人種、階級、ジェンダーを交差し、文化の現場をえぐり出してゆく。ホールに導かれ、ギルロイに師事した気鋭の研究者による鮮烈な単著デビュー。

主催：神戸大学国際文化科学研究推進センター2017年度研究プロジェクト

「ポストBrexitの文化状況—身体・都市・メディア・資本へのグローバルな影響と意味」

問い合わせ先：栢木 清吾 (kayanoki@harbor.kobe-u.ac.jp)

